

こども文教委員会 令和5年8月15日
教育委員会事務局 資料3番
所管 教育総務課

## プールシェア導入の検討について

### 1 「大田区におけるプールシェア導入の検討方針」の策定（企画経営部）について

別紙のとおり

### 2 教育委員会としてのプールシェア導入の検討の方向性について

教育委員会としては、学校プールは子どもの体力増進や成功体験の場として、欠かせない重要な施設であると考えているため、教育環境を向上させ、効果的な水泳指導を実現させることを大前提として、プールシェア導入を検討する。

なお、プールシェアの検討に当たっては、学校屋外プールをシェアすることについては、学校規模から難しいケースが多いため、屋内プールを設置してシェアする方法で検討を行う。

### 3 屋内プールをシェアすることによるメリット、デメリット

#### (1) メリット

- ・天候に左右されず計画的な水泳指導が実施できる。
- ・屋外に比べ熱中症対策を講じ易くなり、安全に水泳指導を実施できる。
- ・学校プールの設備、水質管理が不要となり教職員の負担が大幅に減る。

#### (2) デメリット（自校以外のプールで水泳指導を実施する場合）

- ・移動手段の確保が必要である。
- ・移動時の安全確保等による教職員、児童・生徒の負担に配慮を要する。
- ・移動時間を踏まえたカリキュラム編成の検討が必要である。

### 4 今後の予定

屋内プールをシェアして自校以外でのプール授業を実施する場合は、計画的な授業実施や教員の負担軽減などのメリットがある一方で様々な課題があるため、今後は次のとおり、検討を進めていく。

#### (1) 平和島公園プールでモデル事業を実施する。

（選定校、移動方法、実施時期、指導方法等は別途検討する。）

#### (2) モデル事業実施後、カリキュラムへの影響、指導内容、移動に伴う様々な課題等の検証を行う。

#### (3) 検証結果を踏まえ、今後の学校プールのあり方や整備方針を検討する。

# 大田区におけるプールシェア導入の検討方針について

別紙

(企画経営部策定  
令和5年8月15日  
総務財政委員会資料)

## 1 検討背景と目的

### 【検討の背景】

- 区内には学校プールのほか、公園水泳場などがあり、水泳授業や高齢者の健康増進など、区民の健康づくりにおいて重要な役割を持つ施設となっている。一方、多くの施設で老朽化により機能更新の時期を迎えている。
- 年少人口や老年人口の規模は適正な施設の量に直結する要素であることから、機能更新にあたってはその構成比に留意する必要がある。
- 今後40年間の目的別整備計画に基づく維持コストの見込み額は226億円/年となっており、学校施設が占める割合が47%と最も多く、公共施設は34%となっている。

→ **施設の機能更新について、効率性や有効活用可能な機能を重視し、進めていく必要がある**

### 【目的】

- 「施設重視から機能重視への転換による施設の集約及び有効活用」を通して、「区民の満足度の向上」や「区の財政負担等の軽減」を図るため、公園プールの活用や学校プールの集約化など、区民がプール施設を利用する際の利便性向上など、プールシェアの導入に向けて検討を行う。

## 3 プールにおける現状と課題

	屋外学校プール
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内小・中学校（87校）すべてに屋外プールを設置</li> <li>昭和30年代後半から40年代にかけて整備され、更新時期を迎えたものが多い</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の児童生徒専用施設（87校）</li> <li>小学校 1コマ45分×10～11コマ</li> <li>中学校 1コマ50分×10～12コマ ※文化省水泳指導の手引き</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候、気温による制約を受け易い</li> <li>猛暑による熱中症対策</li> <li>少子化</li> </ul>

## 2 プールシェア導入後の可能性

### 学校プール跡地活用の可能性

学校	地域
教育環境の向上に資する活用	地域と共にある学校づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>グラウンドの拡張</li> <li>自然環境教育に資するスペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所としての機能を備える防災拠点</li> <li>こどもの居場所づくり</li> </ul>

水泳指導への影響（屋内プールの利用を想定）

児童、生徒	学校、教員
<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症対策を講じ易くなる</li> <li>インストラクターによる指導が可能になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候に左右されず計画的に授業を実施</li> <li>学校プール施設整備、水質管理不要</li> </ul>

## 4 想定費用試算

学校プール（屋内）のライフサイクルコスト 27,100千円/年 ※60年

学校プール（屋外）にかかる年間コスト 7,800千円/年 ※60年

シェアする学校数	移動を要する学校	屋内学校プールの年間費用	移動バスの年間費用	年間費用合計	1校あたりの年間想定経費
1	0	27,100	0	27,100	27,100
2	1	27,100	1,200	28,300	14,150
3	2	27,100	2,400	29,500	9,833
4	3	27,100	3,600	30,700	7,675
5	4	27,100	4,800	31,900	6,380
6	5	27,100	6,000	33,100	5,517
7	6	27,100	7,200	34,300	4,900
8	7	27,100	8,400	35,500	4,438

学校プール（屋内）については、4校以上でシェアすることで学校プール（屋外）に対してコストメリットが得られる。

# 大田区におけるプールシェア導入の検討方針について

## 5 プールシェア導入にあたって

### モデル事業の実施

- ・移動に伴う児童・生徒、教員の負担や安全性及び利便性等を検証するため、平和島 公園プール（屋内）でモデル事業を実施する。
- ・実施にあたり、移動手段・授業スタイル等複数パターンを検証できるような学校選定、プールの水位調整等細部にわたる検討項目を想定。

### モデル事業に併せて調査する項目

- ・児童・生徒、教員のニーズ
- ・区民がプール施設を利用する際の利便性向上（利用可能時間等）
- ・公民連携手法の活用

## 6 検討内容

令和5年度

令和6年度

令和7年度以降

- ・平和島公園屋内プールを活用したモデル事業の検討
- ・モデル事業の周知（議会、学校関係者向け）

- ・モデル事業の実施  
⇒結果検証  
⇒基本構想策定

- ・モデル事業を踏まえ、公園水泳場等の区内プール施設及び学校屋内プール施設の複合化を視野に入れた整備検討